2012年（平成24年）
3月21日
水曜日

朝日新聞

愛媛

経済４面
国際６面
小説13面
スポーツ14・15・16面
囲碁・将棋22面
文化24面
地域27面／生活28面
ＴＶ・ラジオ21・22・32面
◆教育面は休みました

朝日新聞大阪本社
発行所:〒530-8211大阪市北区中之島3-2-4
電　話:06-6231-0131　www.asahi.com

「夢に向かい明日の力に」

ダウン症ドラマーの物語上映

国連の記念日前に

「世界ダウン症の日」の21日を前に、松山市湊町3丁目のシネマルナティックで20日、ダウン症の人や関係者向けにダウン症の青年を追った映画の上映イベントがあった。日本ダウン症協会愛媛支部の会員ら約50人が映画を楽しんだ。

イベントでは、日本ダウン症協会愛媛支部の会員らが来場者に記念品や協会のパンフレットなどを手渡した＝松山市湊町3丁目

上映されたのは、ダウン症の新倉壮朗（たけお）さん(25・通称タケオ)を追ったドキュメンタリー映画「タケオ―ダウン症ドラマーの物語」。筋力が弱く、3歳まで歩くことができなかったというタケオさんが、小学生のころアフリカの太鼓と出会い、音楽に没頭し才能をいかしていくようすを描く。2008年にはセネガルへ渡り現地の人々と交流した。

イベントは、同映画館の運営を手伝う「シネマルナティックを守る会」の山崎はなさん(46)の働きかけで実現した。山崎さんは昨秋、東京の映画館で「タケオ」を鑑賞。愛媛でもダウン症の人たちや支える人々に見てもらいたいと思い立ち、協会愛媛支部に連絡した。「タケオ君のエネルギーをもらって、いろんな可能性があると夢に向かって突き進み、明日への力にしてほしかった」

3月21日は、今年から国連が正式に「世界ダウン症の日」と認定した。イベントはその前日の20日にした。同映画館は祝日も含めて火曜日は休館だが、この日は特別に開館。関係者限定として開催された。

上映前、愛媛支部の中村知子支部長(59)は「ダウン症の子どもたちはゆっくり育つと言われていますが、ゆっくり育つ分内面はとても豊かなものが育まれていると思います。記念日がダウン症の人を理解する契機になれば」とあいさつ。タケオさんからの「いつか、松山のみんなに会いに行きたいです。その時は、一緒に盛り上がろう」というメッセージも届いた。

参加した伊予市の三馬知也さん(26)は「木琴の演奏がすごかった。ぼくもダンスを頑張る」。今治市の中村真美さん(27)は「太鼓が響いていてすごいダンスだった」と笑った。

「タケオ」は同映画館（089・933・9240）で4月7～13日にも一般上映される。（河原夏季）